

「口先番長」命名は田中康夫氏

民主党の前原誠司政調会長が記者会見で産経記者の出席を拒否した。理由は産経が前原氏を「言っただけ番長」との表現で何回も報じたこと。前原氏は強い不快感を示し「これはペンの暴力だ」と言った。という。産経は「言っただけ番長」だが、これより先、2年近く前に前原氏を「口先番長」と名付けたのが、新党日本の田中康夫代議士。田中氏が語る。

「意気がって威勢のいいことを言うが、この人の言うことに戦略がない。覚悟もない」と感じた。そこで口先番長とした。きっかけは八ッ場ダムと、日航破綻だ」

この「口先番長」は産経紙上でも何回か登場したが、やや表現が柔らかな「言っただけ番長」と定着したようだ。八ッ場ダムのケースは。「国交相になって八ッ場ダムの建設をやめる」と言う。なぜか、と聞くと「マニフェストに書いて約束したからだ」と。さらに「大きな象徴的な公共事業だから」とも。昨年末には「工事は必ずやめさせる。これは国民への公約だ」と言った。

ところが、建設工事は再開されている。「政調会長だから止めようと思えばやれたのに逃げた。釈明も謝ることもなしに」



鈴木棟一の風雲水田町 4396

「昨年9月30日の会見で『自主再建は可能である』と。記者が『私の整理、法的整理はしないということですね』と聞き、前原氏は『そつで』と答えた。その後、国会で『私は法的整理しない、と言ったことはありません』と。結果的に法的整理になった。尖閣の船長逮捕のときもひどかった」といついつか。

「前原氏は国交相として『公務執行妨害で逮捕を命じたのは私だ』と言った。ところが意味不明の釈放に

なったら『逮捕権は私でなく海保にあった』と言い逃れた。こういう人が外交などできるわけがない。交渉ごとや折衝に全く不向きだ」

今回の事件をどう見るか。

「前原氏は『政治家の人格への侵害だ』と言っているようだが、こんなことで記者会見から記者をボイコットするのは、政治家、公人、リーダーになる資格がない。判断がバカけている」

その理由は。

「言っていないことを書いた、あるいは事実無根を書いた、というなら許せない。しかし、こんなネーミングに怒るとは、自らの墓穴を掘っている」

(政治評論家)

前原氏、産経排除は墓穴か